

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科	科 目 区 分		専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		その人らしさを支える看護実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2～3年		学期及び曜時限	通年	教室名	実習施設
担 当 教 員		三浦 純子	実務経験とその関連資格	医療施設にて看護師として勤務していた。			
《授業科目における学習内容》							
状態が急激に変化(悪化)した状態にある人もしくは手術などによって急性状態になることが予測される人に対する看護を学ぶ。その他慢性疾患の急性増悪、急変など、恒常性の維持が不安定な急性状況下にある人と、その生活を支える家族を対象とした看護実践に必要な能力および看護実習生としての態度を養う。							
《成績評価の方法と基準》							
実習態度、出席状況、学習内容、コミュニケーション、看護技術等により総合的に判断する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
成人看護学概論、急性期看護Ⅰ・Ⅱ、成人看護技術 老年看護学概論、老年看護学各論、老年看護技術							
《授業外における学習方法》							
実習オリエンテーション(①実習要項・目標達成シートについて②実習マナー③カンファレンスなど)を実施し、実習準備をする。急性期における看護について事前学習を行う。							
《履修に当たっての留意点》							
実習要項を熟読し、必要な事前学習をして臨む。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	病棟のオリエンテーションを受け、病棟の概要や役割について知る。受け持ち患者に挨拶し尊重した態度でコミュニケーションがとれる。			所持している教科書・参考書	受け持ち患者の疾患や看護について追加学習
		各コマにおける授業予定	病棟のオリエンテーションを受ける。 受け持ち患者の決定 受け持ち患者・家族への挨拶、コミュニケーション、情報収集。				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者とのコミュニケーションやカルテから情報収集 受け持ち患者の日常生活援助の見学、実施(バイタルサイン測定、環境整備、清潔・排泄・食事援助など)			所持している教科書・参考書	実習記録
		各コマにおける授業予定	行動計画発表 看護師に同行し、援助の見学・一部実施 情報収集・情報整理				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象者とのかかわりを通して年齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴や疾患、行っている治療などについて把握できる			所持している教科書・参考書	実習記録
		各コマにおける授業予定	行動計画発表 看護師に同行し、援助の見学・一部実施 情報収集・情報整理				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の健康上の問題点が明らかにできる			所持している教科書・参考書	実習記録
		各コマにおける授業予定	行動計画発表 看護師に同行し、援助の見学・一部実施 情報収集・情報整理・全体像描写、看護計画立案 ケースカンファレンス				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に応じた看護が展開できる			所持している教科書・参考書	実習記録
		各コマにおける授業予定	行動計画発表 看護師に同行し、援助の見学・看護計画に基づく実施 看護計画修正				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に応じた看護が展開できる。中間評価で自己の現状と課題が明確にできる	所持している教科書・参考書	実習記録 評価表 自己評価
		各コマにおける授業予定	行動計画発表 看護師に同行し、援助の見学・看護計画に基づく実施 看護計画修正 中間評価カンファレンス		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に応じた看護が展開できる	所持している教科書・参考書	実習記録
		各コマにおける授業予定	行動計画発表 看護師に同行し、援助の見学・看護計画に基づく実施 看護計画評価・修正		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に応じた看護が展開できる	所持している教科書・参考書	実習記録
		各コマにおける授業予定	行動計画発表 看護師に同行し、援助の見学・看護計画に基づく実施 看護計画評価・修正		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に応じた看護が展開できる	所持している教科書・参考書	実習記録
		各コマにおける授業予定	行動計画発表 看護師に同行し、援助の見学・看護計画に基づく実施 看護計画評価・修正 最終カンファレンス		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に応じた看護が展開できる	所持している教科書・参考書	実習記録
		各コマにおける授業予定	自己の実践をふりかえり、実践に潜む価値や意味を見出し、それを次の実践に活かすことによりさらに状況にあった意図的な実践を行うためのプロセスとしてリフレクティブな臨床判断能力の高い看護実践者になるためのリフレクションを体験していく(学内)		